国際ロータリークラブ第2730地区　日南ロータリークラブ

週　　報

奉仕しよう みんなの
人生を豊かにするために

「ロータリーの原点に戻る」

例会日　毎週水曜日　12：30～　　例会場　ホテルシーズン日南
住所　日南市園田3-11-1　TEL 0987-22-5151　FAX 0987-22-9588　　会長　豊田裕康

ロータリー財団月間

第3802回例会		№10	2021.11.10	晴れ
点鐘・国歌・ロータリーソング	12時30分　「国歌」　「奉仕の理想」			
ロータリーの目的・四つのテスト	宮田健司　君			
例　会　行　事	結婚・誕生者卓話			

会長時間

1　今月はロータリー財団月間となっており、財団の奨学金事業及び人道的諸事業についての知識と理解を深め、財団の推進に役立つプログラムを実施する月間とされています。

2　まず、ロータリー財団についてですが、正式名称は「国際ロータリーのロータリー財団」で、国際ロータリーのみを法人会員とする非営利法人です。「世界で良いことをしよう。」という標語のもと、「ロータリアンが、人々の健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにする」ことを使命とし、様々な補助金事業を行っております。

ロータリー財団には多くのプログラムがありますが、大きく分けると①ポリオ・プラス・プログラム、②人道的プログラム（地区補助金，グローバル補助金）、③教育的プログラム（ロータリー平和フェローシップ等）の3つに分類されます。

3　まず、①ポリオ・プラス・プログラムについてですが、前回の例会時に国際ポリオデーのお話しの中で詳しく述べさせて頂きましたが、今週，大きなニュースがありましたのでご紹介致します。

前回例会時にも申し上げましたが、野生株のポリオ患者が発生しているのはアフガニスタンとパキスタンの二カ国のみとなっており、ポリオ撲滅まであと一歩となっております。二カ国でポリオ撲滅が達成されていない要因の一つとして、両国に勢力のあるタリバンが、ポリオワクチンの接種が西側の陰謀であると主張して攻撃対象としてきたことからワクチン接種が進みませんでした。

ところが、アフガニスタンで政権を樹立したタリバンが国際社会への復権を目指す活動の一環として、ＷＨＯとＵＮＩＣＥＦによるアフガニスタン全土でのワクチン接種活動に全面協力し、安全確保のためにタリバン戦闘員が同行すると発表されました。これを受け、今月8日から4日間にわたって、アフガニスタン全土で6万8000人のスタッフが個別訪問を行い、これまでワクチン接種ができていない330万人の子供へのワクチン接種を行う予定ということです。

NHKでも大きく報道されていましたが，8日の接種開始を前に7日に首都のカブールでタリバン暫定政府主催の式典がありました。保健大臣自ら接種会場を訪れて子供に生ワクチンの経口接種をするパフォーマンスを行い、「ポリオを予防し，根絶するにはワクチン接種が唯一の選択肢だ。子供達の健康を守るため最前線の現場で努力している全てのスタッフに感謝したい」と発言してワクチン接種をタリバンが全面支援することを約束しています。

昨日は、タリバンの仲介でパキスタンのタリバン関連組織がパキスタン政府と停戦合意に達したとの報道がなされており、パキスタンのタリバン支配地域においても、今後ポリオワクチン接種が進むことが期待されます。

NHKニュースでは，子供にワクチン接種をさせるために会場を訪れた親の言葉が伝えられており、ある男性は「子供達がこの先、ポリオの後遺症に悩まされないよう、大人は子供達にワクチンを受けさせるべきだ」と述べ、別の男性は「子供にワクチンを接種させることができてよかった。アフガニスタンにとって

も実りあるものだ。どんなことがあってもタリバンはポリオの根絶に向けた活動に取り組んでほしい」と述べており、ポリオ後遺症による麻痺に苦しむアフガニスタンの子供達が今後いなくなることが期待されています。

4　次に、補助金事業ですが、①地区補助金、②グローバル補助金、③災害救援補助金があります。

① 地区補助金は、ロータリー財団の使命を支えるクラブ活動を支えるために地区補助金審査会の審査を経て交付されます。

当クラブは、先月贈呈式の行われた「わかば奨学金」の事業について地区補助金申請をしており，今年度も37万円の補助金決定を受けております。これに，皆様の会費からお一人5,000円の寄付と、わかばランチの差額金の寄付をあわせて奨学金の原資としております。

② グローバル補助金は、ロータリー財団の７つの重点分野について予め定められた目標を目指すものであることが条件とされており、平和構築と紛争予防，疾病予防と治療、水と衛生、母子の健康、基本的教育と識字率向上、地域社会の経済発展、環境の7分野となります。

グローバル補助金の支給にあたっては持続可能性があるかどうか厳しく審査がされ、例えば、貧困地域の山間部に最新の医療器具を導入したとしても、電力や維持管理の面から持続的に医療器具を使用した治療ができないと判断されれば不適格ということになります。先日の土曜日にグローバル補助金のセミナーがあり経験クラブのお話しが数クラブからあったのですが、申請にあたっては語学の壁があり、また現地と実際に行き来をしながら申請していく必要があることから、姉妹クラブ盟約を結んでいる海外クラブと協力するか、クラブ会員の中に支援先海外クラブと特別な繋がりのある方がいて率先して活動しているケースがほとんどでした（逆に，率先して引っ張る人が１人いないと無理のようです）。当クラブにおきましても，補助金プログラムが現行制度となる前の2007-2008年度（渡邊眞一郎会長年度）に、姉妹クラブ盟約を結んでいる釜山港都RCとのマッチンググラントが行われ、峰松会員が中心となって，養護施設のための車両，図書の購入の事業がなされております。

③ 災害救援補助金は、過去6ヶ月間に自然災害により被災した地域における救援及び復興活動を支援するためのものです。2011年の東日本大震災の際には、ロータリー東日本震災復興基金に世界中から約880万ドル（約9億円）の寄付が寄せられ、221件のプロジェクトを通じて被災地への支援に充てられました。

5　財団への寄付については数年前まで各会員に個別に意思確認をして寄付を募る形でしたが、名簿を回して〇×をつける形のため事実上の強制となっているとの指摘もあったことから、現在は各会員個別に意思確認を行うことはせずに自発的な申出に委ねられております。その結果、現在の当クラブの財団寄付は、１人あたり5,000円ほどと、地区平均1万円の半分程度となっております。さきほど申し上げましたとおり、当クラブはここ数年わかば奨学金事業のために地区補助金を受領しており、その額は寄付額の倍以上となります。

ここ数年新型コロナウイルス対策プロジェクトが世界的に行われた結果年次基金が枯渇し、今年度より寄付金の分配率が按分から変更され、国際財団活動資金（WF）と地区財団活動資金（DDF）に47.5%づつ分配され、残りの5%が運営費に充てられることとなりました。補助金事業が積極的に行われた結果、年次基金の寄付の伸び率がグローバル補助金プログラムの成長率に追いつかなくなったということです。

以前、財団寄付のないクラブには補助金を認めないと某パストガバナーがおっしゃられていたのですが、当クラブのように寄付金額が極端に少ないケースも今後問題にされる可能性があり、次年度以降の地区補助金申請が認められるかは未知数です。地区補助金が受領できなくなった場合には、わかば事業のあり方を含めて議論がなされる予定にはなっておりますが、財団寄付及びわかば事業について会員に個別にお願いする必要がでてくる可能性もあるかもしれません。

もちろん、会員の皆様の負担が増える場合には十分な議論が必要でありますが、その際には、当クラブの現状だけでなくロータリー財団の現状も踏まえたご議論をお願いしたいと思います。

幹事報告

1)　井福博文ガバナーより、公式訪問のお礼が届いております。

委員会報告

親睦委員会　11/24 夜間例会後の懇親会の案内及び出席要請

誕生者　鬼束忠男君（1950）日髙章太郎君（1952）古澤昌子君（1966）村社浩二君（1969）

結婚　　築瀬　敦君（1994）井野畑善順君（1979）峰松俊夫君（1994）土屋昭次君（1972）

スマイル

田島逸男君　会員の皆さんのご協力とご理解のお陰で、今年度の「わかば奨学金」授与式も無事終了できました。奨学生の皆さんが、ロータリークラブの趣旨を理解し、将来に亘り地域や社会に貢献することを期待します。また、宮崎日日新聞に私まで奨学生との記念写真が掲載されましたのでスマイルします。

鬼束忠男君　孫を、わかば奨学生に推薦頂き、ありがとうございました。

例会行事　　結婚・誕生者卓話

簗瀬　敦君（結婚）

早いもので結婚して27年がたちました。この一年も、特に大きなけんかもせず過ごすことができました。子供たちがいなくなり2人で過ごすようになって3年半が過ぎましたが、お互いが気を使い、我慢した成果ではないかと思っております。このまま何事もなくまた1年を過ごしていきたいです。

結婚記念日ということで、何かお祝いでもと毎年思っています。飲みにでも行こうと誘うのですがうちの嫁はあまり外で飲むのは嫌いみたいです。いつも断られてイエノミになります。息子が帰ってきたり、息子のところに遊びに行ったりしたときは飲みに出たりするのですけど。

ただ今年は偶然にもというかタイミングよく車がお祝いになりました。一番下の息子に車が必要になりそれが6月の末でした。車種が決まりその他もろもろも決定し、7月の頭には注文したのですが、折からの半導体不足やコロナによる工場閉鎖による部品供給の遅れなどの影響か、先月の末にやっと登録できました。結婚記念日の5日は仏滅だったので6日の大安の日に納車しました。

一般的には年間1万キロは走らないのではないかなと思います。ひと昔前は「10年、10万キロが入れ替えのタイミングだ」みたいに言われていました。息子に乗せる車は、平成23年2月登録ですので今度の2月で11年になります。走行距離は約24万キロで、年間走行距離は約2万2千キロですが、まったく故障もなく不具合もありません。先日、あとちょっとで50万キロという車が車検で入庫しました。ディーゼル車だったのですが、よくある燃料漏れやオイル漏れなどもなく大変調子のいい車でした。きちんと整備すれば長く乗れるということです。

今日は、ありがとうございました。

井野畑善順君（結婚）

結婚して42回目の記念日を迎えました。いつの頃からか、妻には毎年結婚記念日と誕生日に花をプレゼントしています。私的には特別な事とは思っていませんが、今や年間の恒例と成っています。ささやかな『いつもありがとう！』という気持ちを込めてプレゼントしているつもりです。

さて、明日11月11日は介護の日だそうです。「いい日、いい日、あったか介護ありがとう」を念頭に、「いい日、いい日」にかけた、覚えやすく、親しみやすいごろ合わせとなっているようです。

介護といえば、長男の嫁に難病が発症し、去年の9月12日に他界しました。12年間、自宅にて介護を長男がしていました。MRＴが「介護の日」に合わせての特集番組を組んでいて、その一環で、昨日テレビにてもさせて頂き、更に、明日13:00～14:00の1時間、息子夫婦をモデルにしたラジオドラマを放送してもらえるそうです。もしよろしければ時間の有る方はお聞き頂き、介護とは何なのか？と考えて頂けるきっかけと成れば幸いです。

土屋昭次君（結婚）

結婚して50年くらいになります。50年の間何があったかと言うと、子供を3人作り、あとはのんべんだらりと生活を続けているくらいのものです。

ここ2年ちょっとは、家内が首を悪くしてしまい、家事を一手にしていましたが、最近は家内が1週間に2日ほど料理をしています。二年間余りで、料理のレパートリーも増え、皆さんにもいつか料理をご馳走したいと思っていますが、誰も来ないでしょう。

老々介護を今やっている訳ですが、どちらが先に行くか競走中です。

鬼束忠男君（誕生）

「時間は、命であり、生命であるという」

生きて、71 歳になりました。今は何も悪いところがなく健康に過ごしていることに感謝しています。数字では、71 歳ですが、私は、7 割と思って、生きています。ですから、今まだ、50 歳と思い、まだまだ、見聞読をたかめていきたいです。本日は、ありがとうございました。

出席率報告

	会員数	出席免除	出席定数	ＨＣ出席	MU	欠席	出席	出席率
今　週	32	7	24	15	6	4	21	87.50%
出席免除	落丸、村上、清水、渡邊、山口、甲斐、古澤							
先取MU	石崎、榎木田、齋藤(奈)、日髙、宮田、峰松							
欠　席	石灘、村社、黒岩、飯干							

事務局〒887-0014　日南市岩崎 3-4-2 Itten 堀川ビル 2F 創客創人センター内 TEL0987-22-3363・FAX0987-22-3515
会長：豊田裕康　　副会長：入中英雄　　幹事：築瀬敦　　雑誌会報広報委員長：河野通郎
雑誌会報広報委員会より　　原稿は、ocame@wing.ocn.ne.jp まで送信してください。